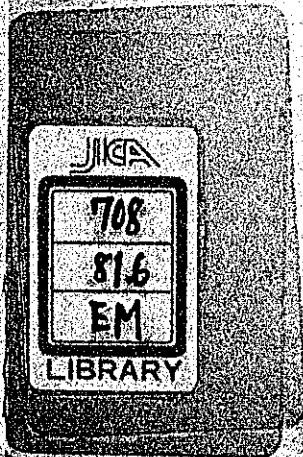
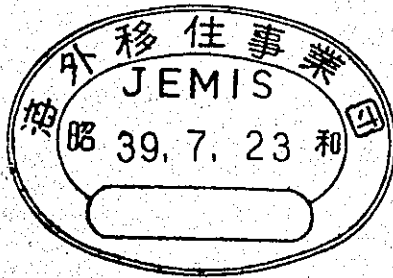


調査資料 1639

C 19

フラム移住地農業協同組合概況

1964年 7月



海外移住事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 8. 16	708
登録No. 09513	81.6
	EM

ま え が き

この資料は、パラグアイ国フラム移住地の富士、ラ・パス及びサンタ・ローサ農業協同組合の概況について記述したものであり、執務上の参考とするため印刷に付した。

1964年7月

海外移住事業団

西語地域課

JICA LIBRARY



1034657[5]

フラム移住地富士、ラパス、

サンタローサ農業協同組合概況

フラム移住地の概況	1
フラム移住地の組合設立概況	2
富士農業協同組合	5
沿革	5
財務状況	6
営農状況	13
ラパス農業協同組合	14
沿革	14
財務状況	15
組合員の営農状況	19
サンタローサ農業協同組合	20
沿革	20
財務状況	21
組合員の営農状況	27
組合員(66名)開発面積及び資金調達明細表	28

フラム移住地の概況

フラム移住地はパラグアイ国第二の都市北方約50 km にあり、チャベス移住地と隣接している。全面積は約7,000 ha であり、その中で日本人移住地区は北部寄りの約1,700 ha である。この地区は日本海外移住振興株式会社が1956年現地に進出移住者に分譲した約1,400 ha と、隣接チャベス移住地の入植を取止め現地フラム土地会社から直接ロットを購入して入植した移住者の居住地区に分かれる。この両地区は殆んど隣接している。

この地区へ現在までに約500家族3,500人入植した。フラム移住地(日本人入植地区)は地区別に次の如く大別できる。

(1) 富士農業協同組合傘下地区

1. チャベス移住地入植を取止めフラム移住地に定着した移住者を主体とする大和地区
2. 前記同様の者とフラム入植初期の者が混入植せる富士地区
3. 愛媛県を主体とする集団入植地区
4. H.O.P 線道路沿いの千代田地区
5. ロンヤットの既耕地を購入定着したアベレア地区

(2) ラパス農協協同組合傘下地区

1. 広島県沼隅町出身者を中心とする集団入植地区
2. ア線7号線道路を中心とする地区
3. 福岡県人を、主体とする集団入植地区

(3) サンタクローサ農業協同組合傘下地区

1. 高知県仁英樹村の集団入植地区
2. 高知県吾北村集団入植地区及清原地区
3. 高知県大正町の集団入植を主体とした高知県人の入植地区
4. 九州各県人の集団地及びA、Q、R 線道路沿いのサンタローサ地区

フラム日本人入植者は、当初入植定着に相当の苦勞をしたが、現在は道路も整備され、学校、病院、組合、倉庫、試験場等が完成し逐次生活環境がとよい現在に至っている。地形は緩傾斜の波状地であり、随所に小河川がある。若干の低地、湿地があるが夏は水がなく、海拔は180m～200mである。

低地、湿地等の極少部分を除き殆ど赤色の所謂テラロンヤである。

現在栽培されつゝある永年性作物はマテ茶、油桐、であり、短期作物はマイス、大豆、棉等の雑作である。

フラム移住地の組合設立概況

フラム移住地入植者は富士、ラバス、サンタローサの三農業協同組合を設立して夫々の傘下地区内移住者が加入している。生産物の共同出荷並に販売購買部を設けて日本人としての経済社会を形成し、移住地の形態を整えつつあるが、一部の移住者は組合活動に加入せず独自でやっている者もある。これ等三組合は夫々設立の時期

組合員の入植時期が異り、又創立後の運営、組合員の出身別及渡航前の職業等が相当幅広く相違し創立後の数年を経過した今日でも、その経営内容と組合員の感覚は夫々特色を持つている。三組合は当然頭初より一組合として発足すべきものと考へられるが、戦后移住再開直后でもあり、其の他種々の事情及びラバス地区の一部に反対等もあり、結極思いのままに設立された。

三組合は次の通り農牧省より法定組合として認可をうけ創立している。

富士農業協同組合	1957年 9月
ラバス農業協同組合	1957年12月
サンタローサ農業協同組合	1958年 2月

三組合は創立直后バ国の経済変動のため、農業生産物の販売不能の時期に直面し之がため組合員が一部動揺し其の他幾多の困難に際会したが、克く之に耐へ其の内容を整えるべく鋭意努力し何れの組合もようやく基礎確立し、経済的安定のめどもついた。

三組合は創立后農業生産物を組合毎に販売し関係機関への交渉バ国政府への報告等を各々の組合に於て実施していたが、事業の拡大に伴い其の不便不利を排し経費節減を図るため、単体組合の連合団体組織の設立を目論み、チヤベス農業協同組合もそれに加えし、1959年2月農牧省より法人組織として認可を得、エンカルナシオン市に事務所を移転し爾来今日に至っている。各農業協同組合の概況は次の如し。

日本人入植地開拓状況

	チヤベス	富士	サンタローサ	ラバス
土地所有面積	3,370 ha	4,207 ha	5,226 ha	2,645 ha
開拓面積1959年末まで	1,200 ha	1,320 ha	1,300 ha	552.4 ha
開拓面積の割合	35.6%	30.9%	24.9%	20.8%
1954年度開拓面積(ha)	260.6	—	—	—
1955年度	545.6	139.6	—	—
1956年度	230.4	280.4	214.0	85.0
1957年度	86.0	195.5	528.4	195.0
1958年度	49.0	108.5	395.6	225.4
1959年度	28.2	51.0	162.0	47.0

チヤベス
アルト・パラナ
フ ラ ム
植民地における主要作物の農期(1963年)

作物名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							山伐り	山伐り	山焼き	山焼き	山焼き		
油 桐						収穫		実生播種					
かんきつ類										実生播種	芽つき		
シエルパ・マテ				実生播種	前年育苗植付			収					
とうもろこし(一期)			播	収									
〃(二期)					播	収							
ワ タ			収										
大豆(早生)				収									
〃(晩生)					収								
雑豆(一期)	収												
〃(二期)						収							
落花生	収												収
マンジョーカ		収											
小麦													収
米(現地式)				収									
〃(日本式)			収										植付け

濃畑で折つて乾燥

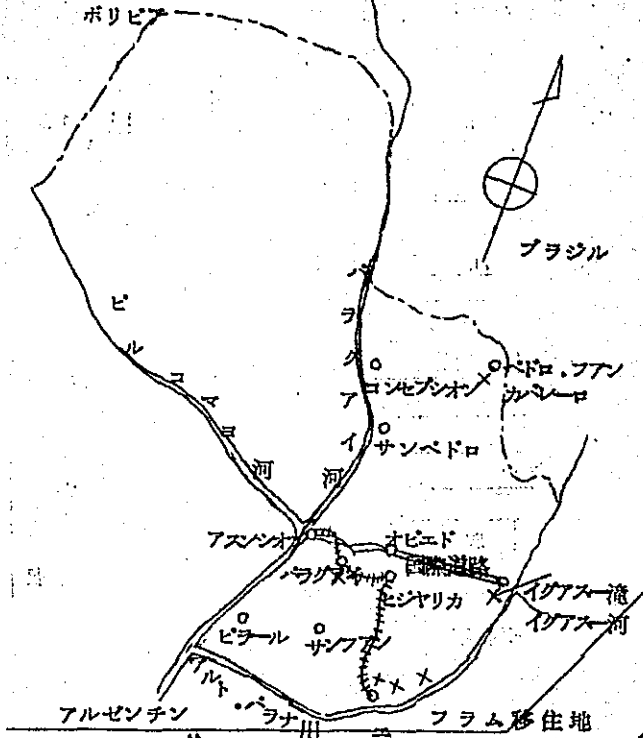
播種 収 収穫

日本人入植地の主要作物の作付面積

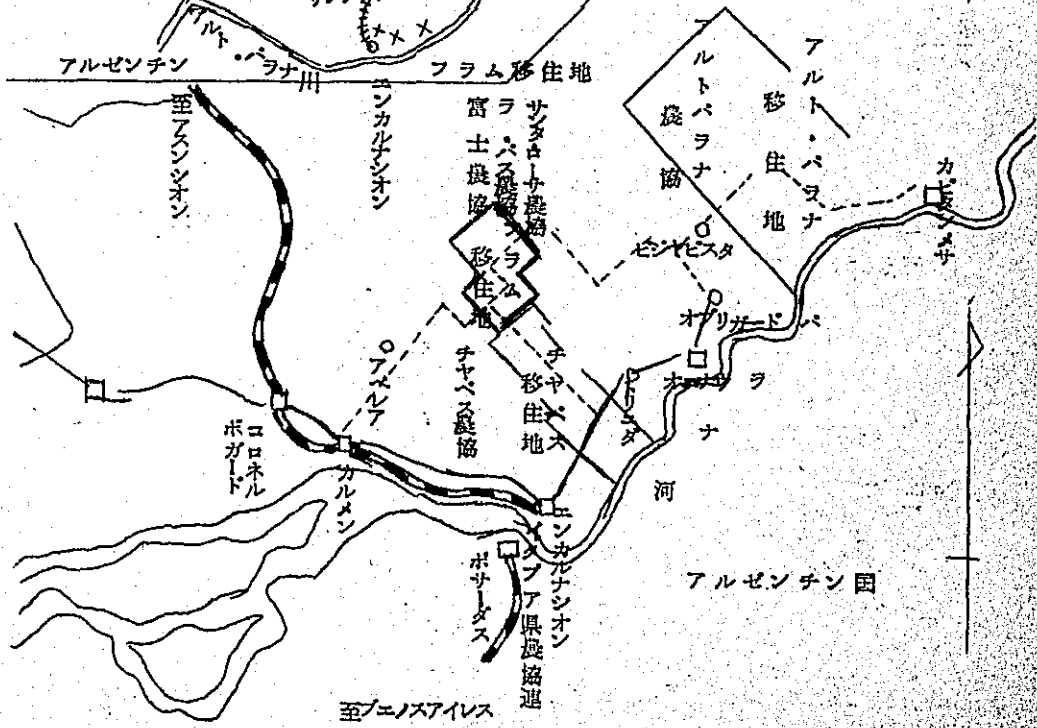
1959年度末

	チヤベス	富士	サンタ・ロサ	チ・パス
(永年作物)				
油 桐	420 ha	425 ha	155 ha	—
シエルパ・マテ	157	230	559.5	—
ポ ノ ロ	54	84	150	—
そ の 他	60	65	10	—
永年作物計	691 ha	804 ha	874.5 ha	—
開拓面積に対する割合	57.5%	60.8%	67.2%	0%
(単期作物)				
とうもろこし	685 ha	862 ha	793 ha	373 ha
落 花 生	156	30	—	17.4
小 麦	322	147	70	93.3
ワ タ	193	103	7	16.9
米	87	60	67	52
その他豆類、マンジョーカ	135	249	145	109

パラグアイ国邦人移住地概図



フラム移住地位置図



富 士 農 協

1. 沿革

当富士地区の入植は1955年11月フラム土地会社の土地に邦人移住者6家族が入植した事
 の端を発している。その約一年間に亘り約30数戸の邦人入植が行われたが何れも戦后バラグア、
 イ移住が再開された初の移住地であるチャベス移住地入植予定の人選であつたが、日芭混合入植
 地である当チャベス移住地は既に良質のロツテ無く開拓意欲の盛んなるまゝ単独行動に依り現地
 人社会の中の当フラム土地会社の土地を購入する事に依り将来発展の基盤を築いた。

其の后、1956年日本移住政策に基く当フラム移住地の開発は後続移住者の入植する所となり一
 つ樞紐移住地の中心となり当富士地区はフラム移住地に於て最初の組合結成地区となつたもの
 即ち1956年11月36戸を以つて任意組合を結成、1年経いて1957年9月法定組合とし
 て手続完了、認可を受く。組合員数105家族

その後、1959年	7月	組合員	125戸
1960年	2月	〃	141〃
1961	2月	〃	139〃
1962	2月	〃	120〃
1963	2月	〃	81〃

の変遷を踏んで来た。

組合役員は次の如し

役 職 名	氏 名	年 令	職 歴
組合長理事	谷 脇 千 晴	48	前 公務員
専務理事	高 木 明	45	〃 理美容連盟講師
常務理事	倉 林 好 一	39	〃 製造業
常務理事	石 田 完	27	〃 会社員
理 事	竹 内 大 策	41	〃 〃
理 事	山 本 幸 一	59	〃 通信局職員
理 事	白 沢 金太郎	57	〃 農業、炭坑従業員
理 事	平 岩 昭	47	〃 自動車修理業
理 事	片 岡 亮 一	53	〃 学校教員
監 事	磯 部 衛 一	28	〃 農 業
監 事	原 通 雄	52	〃 木工、製材業
監 事	並 木 平三郎	54	〃 農 業

2. 組合の財務状況

(組 合)

(1) 組合創立以来 これといった営農指導方針もなく、当国三角プランの線に沿った小麦、マيسの作付を奨励し、この為、国農銀より営農資金の借受をするなど、営農の増強を計つたのであるが、何分当国には小麦栽培は通せず併せて農銀のマيس買付ストップは1時移住地の危機に立到つた状態である。加えて、相次ぐ旱魃被害に組合員は全く疲弊し切つていた。

その急処切抜け策として当旧移住振興会社より緊急融資525千円を借入れ(1959)翌年組合の3ヶ年永年作物作付計画に基き、永年作物の増植に長期営農資金の借入を行つた。その後、この長期融資の一部約400,000円は、組合の強化対策又組合員の換金対策として農業加工を行へべく総会に於て澱粉製造工場の設置資金として運用する事に決定、設置準備委員会を設け専心全工場設立に邁進努力して来たものであるが、臍般の事情許さず全工場の設立計画は失敗に終り既に購入済の機械器具はスクラップ同然となつた。この不良財産が痛となり、組合運営に多大な支障を来しこげつき資金のうめ合せやりくり主義の経営は本年度に至り1200万余円もその欠損を出すに至つている。その間の経緯は兎も角として1962年度来1963年度中間引継決算を検討するならば下表の通りとなり、62年度執行部及事務局の不健全経営は歴然としたものである。即ち両決算に於て62年度275千円及63年度(3/1~5/15)58千円の不当欠損金を出すに至つており、フラム地区単協中最も苦しい組合といえる。

貸借対照表 (1963年5月15日現在)

資 産 之 部		富 士 農 業 協 同 組 合	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
現 金	2,079.50	当座預り金	252,100.94
小口現金	788-	当期	96,200-
預 金	105,615.17	短期借入金	114,400-
短期貸付金	1,046,722-	未 払 金	235,530.85
長期	1,293,600-	仮 受 金	153,428.14
立 替 金	202,297.51	委託販売代金	23,492.8-
仮 払 金	252,132.08	前 受 金	49,626.2-
未 収 金	252,468.31	長期借入金	2,577,001.75
前 渡 金	38,687.1-	減価償却引当金	18,627.62

前 払 経 費	18,725-	資 本 金	5,166,000-
土 地	30,628-	特別積立金	215,996.73
建 物	302,447.70	出資金払戻し積立金	52,362.14
車 軸	324,592-	買 掛 金	588,332-
機 械	70,000-	道路管理積立金	2,050-
自動車用部品貯蔵品	3,000-		
什 器 備 品	140,929.50		
未払金	265,376.685		
有 価 証 券	1,000-		
未 収 資 本 金	4,237,812.20		
購 買 売 掛 金	210,478.60		
繰 越 商 品	390,475.60		
前 期 損 失 金	126,656.4965		
未 収 弁 償 金	240,956.42		
建 設 仮 定 金	3,621-		
未 収 道 路 管 理 分 担 金	69,793.50		
当 期 損 失 金	278,489.43		
合 計	11,400,464.17	合 計	11,400,464.17

当 期 損 失 金 明 細

富士農業協同組合

勘定科目	増 額	減 額	残 高	摘 要
買 掛 金	8,669.850	3,635.882	50,339.61	未記入分(前期分)(一部今期)
売 掛 金	12,911.70	3,181.06 48,261-	12,911.70	(前期分) 回収不能と決定せる額
未 収 金	16,827-	75,140	△4,615.06	未記入分(今期分一部前期)
仮 払 金	360-	3,500-	△3,914.0	未記入分今期
未 払 金	69.60- 47,850.72		51,316.72	今期末記入分
立 替 金	4,662.50	3,439.33	4,662.50	(仕入商品分)前記分
仮 受 金			△3,439.33	組合収益分前期分
預 り 金	20,600.18		20,600.18	記入誤記 前記分
受託販売代	1,504.75 14,514-		16,018.75	未記入分前期分
合 計	212,895.35	95,491.68	117,403.67	

6) 組合の収支一覧

摘 要	1962年(3/1~2/29)	1963年(3/1~5/15)	備 考
購買事業収入	505,846	7,733	
受取手数料	259,234	38,007	
運送事業収入	550,815	65,611	
負 担 金	80,494		
受 取 利 息	185,995	19,096	
そ の 他 収 入	310,783	98,665	
収入合計	1,893,167	813,146	
一般管理運営費	1,211,958	182,909	
支 払 利 息	298,443	95,830	
そ の 他	120,667	212,895	
減価償却費	247,600		
繰越損失金繰入	938,074		
機械施設評価損失金	342,927		
支出合計	3,159,669	491,634	
差引損益	損 266,502	損 278,488	

(註) 62年度主なる損失は前期繰越938,074を除外すると、長期融資運用による、穀粉機械及諸加工施設の評価損失に係るものであり、年々のこれら機械施設の評価減加えて運転資金の窮乏により日増しに、個人商店より商品借入等借入金の利息返済等悪条件の重なり、何ら利益の生む所なく遂に126万余の欠損金を生むに至つた。又、63年度新執行部事務引継に際し、旧執行部宛引継決算の要求(旧執行部に於て、2月月末決算精算の完備せぬまま5月15日迄引継ぎ運営していたもの)を行つた結果借入申込書添付の決算書となつたものであるが、1部購買事業収入に於て-7,733を示し、当農協規定の手数料10%に法定日数減を考慮するも有り得べからざる数字が計上されている。これは一重に旧執行部の放漫経営によるものである物品管理の不充足盗難等が原因している。

イ) 組合の財政状況

ロ) 組合62年度末及び63年度引継決算に於ける資産状況

科 目	年 度	62年度(3/1~2/29)	63年度(3/1~5/15)	備 考
Ⅰ 流 動 資 産		2,997,520.76	2,849,927.77	
現 金 預 金		13,014.-	108,482.67	
売 掛 金		151,285.74	210,478.60	
(当座資産計)		164,299.74	318,961.27	
短 期 貸 付 金		1,066,789.-	1,046,722.-	
立 掛 金		151,466.26	202,297.51	
仮 払 金		236,420.01	252,132.08	
未 収 金		200,637.25	252,468.31	
前 渡 金		672,550.-	386,871.-	
繰 越 商 品		505,358.50	390,475.60	
(その他流動資産計)		(2,833,221.02)	(2,530,966.50)	
Ⅱ 固 定 資 産		2,649,714.065	3,939,096.27	
土 地		28,558.-	30,628.-	
建 物		302,447.70	302,447.70	
車 輛		324,592.-	324,592.-	
什 器 備 品		101,657.88	140,929.50	
機 械		70,000.-	70,000.-	
自動車部品貯蔵品			3,000.-	
(有形固定資産計)		(827,255.58)	(871,597.20)	
長 期 貸 付 金		1,293,600.-	1,293,600.-	
出 資 金		252,050.065	265,376.685	連合会出資金
有 価 証 券		1,000.-	1,000.-	新聞社2株
未 収 弁 償 金		275,808.42	240,956.42	
前 期 損 失 金			1,266,564.965	
(無形固定資産計)		1,822,458.485	(3,067,498.07)	
Ⅲ 繰 延 勘 作		4,326,735.20	4,332,951.70	
前 払 費 用		19,745.-	18,725.-	事務用品費
未 払 込 出 資 金		4,306,990.20	4,237,812.20	
建 設 仮 勘 定		5,271.-	6,621.-	
未 収 道 路 管 理 分 担 金			69,793.50	
Ⅳ 当 期 損 失 金		1,266,564.965	278,489.43	
合 計		11,245,805.99	11,400,464.17	

(註) 62年度資産内訳

短期貸付金	(イ) 営農短期貸付金(当社融資) 980,000.- (当社より貸付実行(1962年)の短期融資は1,000,000.- であるが、差額20,000.-は離脱組合員分組合預り金) (ロ) 営農短期貸付金(パ国農銀) 40,000.- (ハ) 組合短期貸付金 44,789.-
立替金	道路工事、雑誌、新聞、食堂部関係立替他
仮払金	学校関係、治安協力関係、診療費、その他
未収金	乳牛関係、ボルサ代金、農業代金、自動車利用料他
前渡金	(イ) 楠前渡金 572,550.- (ロ) ツング 100,000.-
長期貸付金	永年作持家畜導入資金(当社より借入) 1,293,600.- 総額2,150,000の内856,400.-を組合流用
機 械	穀粉製造機械一式、原地釜、蒸釜計 234,000.- を売却残存機械に対し再評価ニ残存価値70,000.- (原地釜売却益4,600.- 評価差換金161,400.-
未収弁償金	275,808.42 執行部放漫経営による購売部商品の不当欠損による ものである。

62年度未定例総会に於て、4、3、3の弁償比率を決定

即ち組合長、専務兩名により	$(\frac{4}{10})$	1,103,233.7	を3ヶ年均等分割
一般役員	$(\frac{3}{10})$	82,742.53	を2ヶ年
組合員全員	$(\frac{3}{10})$		1ヶ年

それぞれ弁償する事となつている

建 物	購買部、農機具、納庫、車庫、倉庫、警察駐在所 校長宿舍、職員宿舍、事務所
車 輛	トラック 217,402.- ジープ 107,190.-
建物仮勘定、警察宿舍材料費	

2. 負債資本の部

科目	年度	62年度(3/1~2/29)	63年度(3/1~5/15)	備考
(I) 流動負債		2,988,248.37	3,104,458.179	
買掛金		50,557.489	58,833.2-	販売品一部 5880 給油スタンド
預り金		25,683.303	25,210.94	組合員の預り金
短期借入金		1,420,071.89	1,144,000.-	事業団より短期100千円 長銀314千円他
未払金		55,649.10	28,530.85	当事業団への融資利息他
仮受金		3,350.748	15,342.814	農機具貸借代他
前受金		71,609.-	49,626.2-	ツング、棉
委販代金			23,492.8-	棉花
(II) 固定負債		2,673,201.75	2,673,201.75	
長期借入金		2,577,001.75	2,577,001.75	事業団より借入金 長期営業トラック購入
定期預り金		96,200.-	96,200.-	組合員より
(III) 引当金		418,358.82	456,680.49	
減価償却積立金		150,000.-	18,627.162	建物及備品
特別積立金		215,996.73	215,996.73	欠損負担金に充当
出資金戻引当金		52,362.14	52,362.14	
道路管理積立金			2,050.-	外部車輛より1台に対し1:1000
(IV) 資本金		5,166,000.-	5,166,000.-	
合計		11,245,805.99	11,400,464.17	

(註) 特別積立金：離脱組合員払込済出資金であるが、損失補填金充当金として積立

出資金戻引当金：全上離脱組合に対する損失金負担分を差引いた要正済(個人に対し)分の積立金

上表より検討すれば、63年度中間決算は組合運営上未収入期であるため赤字発生は年度後期にその埋合せはつくとしても、62年度末財政状況は当イタプア県下農協団体に於て最も不良成績と云える一団を当移住地に於ける各組合の運営は借入金に依存する所が大きく現地事情として曰むを得ないコロンビア発展の過渡期状態であるが、富士農協に於てはその僅少流動資金が従来の経営の誤りに依り不良固定資産に化してしまった。

勢い運転資金の逼迫に依るやりくり算段に加えて経営の放任に依り年々赤字を計上し、買掛金の支払遅滞、借入金 利金の期日延滞等が重なり、1962年末126万余の欠損を出し、対外用用、

内部行政共に行詰り状態に陥った。

(二) 組合財政再建

前述状況下に置かれた当農協の再建策として、62年度期末総会に於て下記の如き決議を行った。

1. 損失金 1,266,564.00 円 の分損金制度

各年度に発生した欠損金をその年度の組合員数で除いた金額を一組合員当りの欠損補填分損金とする。その払込方法は未払手形に依り5ケ年以内に完納する。

2. 未収弁償金の回収方法

1962年度分 組合長、専務理事 ($\frac{4}{10}$) 3ケ年均等償還
一般役員(理事、監事) ($\frac{3}{10}$) 2ケ年均等償還
組合員全員 ($\frac{3}{10}$) 1ケ年内

1963年度分 (58,052.00 円) 当期損失分の一部を購買部不当損失金として総会に於て決定。組合長、専務理事、会計及一般役員にて弁償する事となつたが、その弁償方法は

組合長、専務理事、会計 ($\frac{1}{7}$) 2ケ年均等償還
一般役員(理事、監事) ($\frac{3}{7}$) 1ケ年以内

3. 分損金制度

組合員一戸当り粗収入100,000.00 円迄は3,600.00 円 の分損金を納め100,000.00 円 を越える粗収入に対しては3%の手数料(委販)を徴収する。これは低水準の組合員が従来組合に負担を掛けていた事を除くものであり個人の営農意欲をも向上させる目的を持つ

4. 購買売掛の廃止

現金預金の裏付けの無い者には売掛は行わない

5. 購買部門取扱品目の調整

取扱品目を生活必需品、及小農具、農薬に限定し事務処理上の煩雑を防ぐと共に回転率の少ない嗜好農産品をさげ

6. 常勤理事制

職員を減じ(現在2名)専務理事他2名の常任理事を置き職務内容に責任を持つ

(一理事が運転手兼任)

(付) 上記組合総会の決議諸事項に基き新執行部の運営計画を検討するなれば

イ 不良資産(殺粉施設、乳牛管理、その他)の減少

(ロ) 欠損金(1962年度末)の未収損失補填金化

(ハ) 欠損金弁償金の徴収方法の確定(法規に基パンプレー(支払手形)の採用)等の理由に依り過去の実績は良好とは云えないが新執行部の質素な再建強化方針とし相俟つて除々に正常化しつつある。今の機にのみ 貸融資を行う事に依り、組合員の営農を助成し組合収入を増加される事は、組合の営業成績を健全ならしめ、延期申請が出ている既係貸付金の回収をし、容易にする事と思料される(他農協に水準を併せ組合員の営農生活を向上させるには当事業団の融資貸付の有無に左右される所は大きい。)

(ニ) 当事業団よりの借入金

使 途 別	貸 付 額	償 還 額	現 在 残 高	期 限
トラック購入資金	455003.78	27300228	18200150	64.9.8
永年作物家畜導入資金	2,150,000-	—	2,150,000-	65.3.30
短期営農資金	1,000,000-	—	1,000,000-	63.10.24
団体運転資金	500,000-	—	500,000-	64.11.24
渡航前肩済シープ代	245000-	—	245000-	65.5.25
計	4,350,037.8	27300228	4,077,001.50	

3. 組合員の営農状況

組合員過去3ヶ年の主要農産物販売実績は下記の通りである。

品目別	年 度		1960	1961	1962	減 増
	販売量	販売額				
マ イ ス	販売量		934 t	854 t	1,024 t	170 t
	販売額		3,172 千円	2,368 千円	3,963 千円	595 千円
大 豆	販売量		60 t	62 t	211 t	209 t
	販売額		347 千円	379.4千円	2,217 千円	1,838 千円
棉	販売量		8.7	13.6	58.2	44.6
	販売額		122.5	220.8	1,038	817.2
小 麥	販売量		8.6	45	18.2	13.7
	販売額		70.9	37	155	118
落 下 生	販売量		5.2	13.4	6.1	△ 7.3
	販売額		45.1	113.5	53.2	△ 60.3
ソ ン ゴ	販売量			17	33	16
	販売額			127.1	273.8	146.7
雑 豆	販売量				18	18
	販売額				191	191
粗収入計	販売額		3,759.5千円	7,891.5千円	7,891.5千円	3,644.8

増減欄は1961年度及1962年度農産物収獲増減対比

上表に示す如く1962年度には前年度に比し急上昇の生産物増加が伺う事が出来る。1962年度平均粗収入は約6,6000(1/120)となっている。

ラパス農業協同組合

1. 沿革

1957年広島県沼隈町出身の57家族が同地区に集団入植し（旧備後組合）他県からの入植者も加はり、総員121名の組合員を以つて発足し、1957年12月25日ペ国農牧省より、「法定組合」として認可された。その後同組合員の中には、独身青年20数名が参加していたが稼働力からみて営農不可能（自営農としては）の状況に陥入りその殆どがヴェノス方面にし、また組合員として共同生活の出来難い者はフアンカバレロ、アスンシオン近郊、エンカル方面に転出した組合員と思想を異にする11名の者が組合より除名処分を受けるなどして現在組合員は71家族（334名）に減少している。

設立当初は携行資金の不足、農作物の販売量不足、出資金の不足或は必要道具の不足等から組合の経営もかなり苦しく、加えて組合会計主任の不正行為による自殺事件が発生し農牧省の摘発監査などを受け経営の前途も危ぶまれたが現在迄踏み止つた組合員71家族はこれ等の苦難を除々に克服し自己の営農を推進し組合員の手によつて構成される組合の運営も無駄を除去した合理的な状態になりつゝある。

1962年度ラパス農業協同組合役員名

役員	氏名	年齢	職業
組合長理事	池川 専明	53	農業
専務理事	後藤 吉郎	41	／
理 事	藤原 千代三	41	商業
／	河野 昌 蔵	30	農業
／	中江 勇	49	会社員
／	跡部 國衛	47	農業
／	遠藤 文男	31	／
／	竹内 荒一	57	／
監 事	高村 敏幸	45	公務員
／	神原 知	36	農業
／	小林 良男	33	／

2. 組合の財務状況

(1) 1962年、1963年2月末の両決算書を中心に組合の事業内容を検討すれば、1962年に於ては剰余金 $\yen 244,654.49$ を計上し主として繰越欠損金の補填に当てているが、車輛その他の償却積立を零として放置しており、決算の常道を逸脱した決算を行つているが、本年度の荒利益の処分にあつては、前年度より持越された欠損金の補填を行い尙各種の償却積立を行ひ得たことは、組合経営の根本をなす、各組合員からの農作物の出荷が前年度に比し飛躍的に伸びたことに基因するものである。更に特筆すべきことに前年度の障害事業収入に比較して本年度の収入が減少していることが挙げられるが、これは組合員の自給体制が確立してきたこと、日用生活必需品に仕入をしぼつてきたこと等が伺へる。組合運営の収入源からみれば減少は痛いところであるが耐乏生活に耐えつゝも農作物の収益をあげていることは組合の現況からしてむしろ喜ばしいこととも云えよう。

(2) 尙1962年度の決算に補足説明を行うと

イ、不当支出金 $\yen 70,000$ は過去に於ける組合内部の不正事件の個人負担分であつて此の分は1964年度末迄には個人から確実に納入されることになつている。

ロ、前期に於ては代車購入積立金として $\yen 25,925$ を計上したが今期になつて前期同様に積立てなかつた理由は、前期に於ては組合員個人所有のジープを組合所有とみなして積立たものであるが個人と談合の上今期からは個人の定期預金として組合に積立てることとした訳である。

ハ、定期貯金、貯金は全額本年度の営業資金(借入金に対する自己資金)と組合から払出されることになつている。

(3) 組合の収支状況及貸借対象表、損益計算書は次表の通りである。

イ、1960年、61年、62年の組合事業収支状況

年 度	1960	1961	1962
項 目			
購買事業収入	394,837	374,105	258,010
手数料収入	112,818	140,509	279,081
運輸事業収入	56,623	57,201	78,283
その他収入	142,027	169,334	362,833
受取利息	144,252	100,186	133,113
収入合計	1,360,170	1,356,335	1,815,320
一般管理販売費	89,627	92,487	1,150,357
減価償却費	9,100	0	206,140

項 目	年 度		
	1960	1961	1962
そ の 他	62,000	31,187	310,118
支 払 利 息	302,758	155,624	148,705
支 出 合 計	1,352,038	1,111,682	1,815,320
差 引 損 益	⑧ 8,132	⑧ 24,465	0

1. 資産の部

1963年2月28日現在 (G S)

科 目	金 額	備 考
I、流 動 資 産	2,258,026.75	
現 金 預 金	176,914.60	
売 掛 金	28,368.-	
(当 産 貸 産 計)	(205,282.60)	
繰 越 貯 売 品	469,336.33	
、 受 注 品	6,858.85	
、 種 苗	2,995.20	
(棚 卸 資 産 計)	(479,190.38)	
仮 払 金	25,694.-	
前 渡 金	578,554.-	
立 替 金	11,105.-	
未 収 金	210,750.77	
短 期 貸 付 金	677,450.-	内600,000〇〇会社融資
不 当 支 出 金	70,000.-	
(其 他 流 動 資 産 計)	(1,573,553.77)	
固 定 資 産	2,702,830.19	
建 物	51,471.-	
車 輛	868,777.54	
什 器 備 品	52,065.-	
(有 形 固 定 資 産 計)	(972,313.54)	
長 期 貸 付 金	1,494,128.-	当社融資5件
出 資 金	236,388.65	
(無 形 固 定 資 産 計)	(1,730,516.65)	

科 目	金 額	備 考
Ⅲ繰延勘定	901,685.72	
未払込出資金	901,685.72	
合 計	5,862,542.66	
2. 負債の部		
科 目	金 額	備 考
I 流 動 負 債	2,085,559.16	
買掛金	212,438.50	
前受金	588,512.-	
仮受金	55,078.-	
未払金	177,387.66	
短期借入金	600,000.-	当社短期融資
未払受託品代金	10,390.-	
預り金	44,175.3-	
Ⅱ 固 定 負 債	2,306,223.50	
定期預り金	88,625.-	
長期借入金	2,217,598.50	
Ⅲ 資 本 金	145,550.0.-	
払込出資金	553,814.28	
未 払	901,685.72	
Ⅳ 引 当 金	15,260.-	
職員退職引当金	15,000.-	
公益金	260.-	
合 計	5,862,542.66	

損 益 計 算 書

62. 3. 1~63. 2.28 (0)

科 目	金 額	備 考
I 売 上 総 利 益	1,422,685.80	
隣買品売上利益	258,010.16	
受託販売手数料	258,005.24	
その他手数料	21,076.40	
運輸事業収入	782,283.-	
シ ー プ 使 用 料	103,311.-	

科 目	金 額	備 考
II 一般管理販売費	1150357.25	
III 事業利益	272,328.55	
IV 事業外収入	392,635.50	
受取利息	133,113.-	
負担金	27810.-	
寄付金	19,973.-	
差益金	155,954.-	
受取損失補填金	21,409.28	
雑収入	34,376.12	
V 事業外支出	273,773.83	
道路管理費	95,068.-	
連合会負担金	30,000.-	
支払利息	148,705.83	
VI 引当金勘定	391,190.22	
繰越損失金繰入	68,217.90	
固定資産処分損	39,901.-	
備品消失費	37,866.-	
シープ借用料	30,000.-	
トラクタ備品消却費	129,525.-	
トラクタ消却費	38,749.32	
棚卸評価損失金	14,246.-	
職員退職引立金	15,000.-	
購買品容器欠損金	17,685.-	
差引当期純損益	0	

(4) 旧移住振興当社よりの借入金

(3)

使 途 別	貸 付 額	償 還 額	現 在 残 額	期 限
A 永年作物家畜導入	360,000.-		360,000.-	65. 3.30
B 農機具購入資金	761,000.20	380,501.10	380,498.20	66. 2.11
C 大豆脱穀機購入	168,000.-		168,000.-	64. 3.25
D 役畜導入資金	500,000.-		500,000.-	66.12.19
E 短期営農資金	600,000.-		600,000.-	64. 6. 4
F トラクタ購入資金	630,000.-		630,000.-	69. 1.2.2
ラ ナ	3,019,000.-	380,501.10	2,638,498.20	
一戸当り(組合員)	42,500.-	5,400.-	37,000.-	

(注) C、D、E、F符号分は米非建につきレート0.126で換算

3. 組合員の営農状況

組合員の過去3ヶ年の指定農産物販売実績は次表の通りである。又61年度比較による62年度販売実績の増減理由は備考の通り。

品目	年度	1960	1961	1962	備考 増減
マ イ ス	販売量	675 t	775 t	837 t	62 t
	額	2,622千円	3,163千円	3,269千円	106千円
大 豆	販売量	62	54	196	142
	額	436	404	1,655	1,251
棉 花	販売量	15	24	113	92
	額	203	334	2,014	1,680
落花生	販売量	6	7	2	5
	額	55	62	19	43
計	販売量	758	857	1,148	291
	額	3,316	3,963	6,957	2,994
1戸当り平均粗収入		39,952円	47,179円	97,886円	50,807円

備考 1961年から1962年にかけて急上昇の生産量増加を何うことが出来る。

組合員一戸当り平均粗収入は61年度に比し約2倍余の97,886円となりマيس、落花生に代り、大豆、棉の生産量の増加が上表に示す如く、生産量の急激な上昇は耕地の拡張もあるが、尙此の差は61年度早熟害による作物減収にも起因している。

サンタローサ農業協同組合

1. 沿革

1957年6月フラムの移住地に集団入植した21家族の高知県出身者により、フラム農業協同組合、(任意組合)を設立。其の后同地域の後続移住者の増加により任意組合を解散、同年12月8日設立組合員36名を以つて新たにサンタローサ農業協同組合を結成、翌1958年2月28日当国農牧省より法定組合として正式認可を得て現在に至つたものである。

サンタローサ組合は現在140名の組合員に依つて構成されており常に弛みない努力による各国の農業の拡張は組合執行部の農業指導方針と相まつて、度々霜害、旱魃を蒙りながらも除々にその基盤を確立しつつある。又組合員の年間平均粗収入は60年度=65千円、61年度=68千円、62年度=103千円と年毎増加しており本年度予想では160千円を越える見込みであり、組合員の収穫量の増加は組合の収入源を大きくしその運営は健全な歩みを進めつつある。組合員の半数余は入植后4~6年を経過しており、入植当初より永年作物を重点主義により作付されたソング、セルバ、ポメロは昨年度より僅か乍ら収穫を見、自給体制の確立を進めると共に新規開発に依る耕地の拡張はパラグアイ農業法にも慣れており、他の組合に比して合理的な農業生活を営んでいる。

1962年サンタローサ農業協同組合役員名

役員	氏名	年令	職業
組合長	山 脇 敏 磨	45	農業 地方公務員
理事	深 見 忠 男	49	〃
〃	鈴 木 晴 喜	41	〃
〃	横 山 栄 次郎	51	〃
〃	那 須	45	〃
〃	筒 井 正	38	地方公務員
〃	久 岡 留 義	46	〃
〃	中 村 島 大 吉	41	商 業
〃	山 下 久 木	52	〃
〃	山 崎 留 吉	43	〃
〃	下 野 元 米 次郎	38	〃
〃	大 野 政 道	52	〃
監 事	田 辺 友 信	37	〃
〃	笹 尾 秀 夫	38	〃
〃	宗 崎 友 信	38	〃

2. 組合の財政及経営状態

(イ) 61年度、62年度の決算等を比較するに61年度は282,506.39の欠損を生じているが、其の后62年度に至つて657,518.43の素利益を計上、黒字に転じた。これは販売事業から生ずる手数料収入、運輸事業から挙がる運賃収入等が組合員全員の換金農産物の増収に因して順調に伸びたものと云える。

(ロ) 販売事業の売掛金制度は62年9月よりこれを廃止して現金制度を実施していることは組合員の農産収益が多くなつてきていることを物語り、それだけ組合の運転資金は販売事業の商品売掛として固定することなく好転している。

(ハ) 組合創立以来4ケ年にして、組合経営は黒字に転じ他の農協と比較して無理のない決算を行ったことは経営者の組合運営能力もさることながら組合員の営農向上と組合執行部に対する協力態勢が主原因となつており、それが一年度を追う毎に資金が蓄積され、販売手数料、その他の事業収入の上昇結集として表われている。

然しながら組合の財政状態は漸く危機を脱した程度であり、他の農協と異つて農産加工事業の経営で行つておる関係上、借入金も年々多額に昇つて来ているので、各種事業に亘つて一つ手を弛めると運営は不振に陥る可能性もあるので尙一層の合理的な経営が望ましいところである。

(1962年度期末貸借対照表及損益計算書は次表の通り)

貸借対照表

1. 資産の部

項 目	金 額	備 考
I 流 動 資 産	4,425,166.305	
現 金 預 金	721,961.60	
売 掛 金	5,226.39	
(当 座 資 産 計)	(731,187.99)	
(棚 卸 資 産)	(1,007,897.33)	
立 替 金	354,143.755	マテ茶第2加工他
前 渡 金	896,992.-	棉、雑豆、豚油、その他

項 目	金 額	備 考
未収販売手数料	141,039.11	販売手数料1%引上げ未収分
短期貸付金	129,7913.12	大豆、棉作付資金
其他流動資産計	(2,690,080.985)	
II 固 定 資 産	6,010,423.47	
建 物	312,930.80	本所、支所 その他
車 輛	1,740,742.07	トラック3台 シープ1台
備 品	113,182.25	
機 械 装 置	189,119.40	ツリヤドーラ、動力噴霧器他
(有形固定資産計)	(2,355,979.47)	
連合会出資金	391,344.-	
長期貸付金	3,263,100.-	永年作物作付資金(貸他)
(投資計)	(3,654,444.-)	
III 雑 勘 定	171,694.9	
委託販売引当金	7,612.65	販売物目切れ破損等調整
治安協力金	2,550.-	
教育補助金	6,999.89	教育諸経費立替
IV 繰 延 勘 定	3,640,964.71	
未払込出資金	3,640,964.71	
繰越損失	282,586.39	
合 計	14,376,303.455	

2. 負債資本の部

項 目	金 額	備 考
I 流 動 負 債	2,829,044.36	
前 受 金	708,600.00	桶代前渡金
預 り 金	1,040,857.93	
買 掛 金	332,886.50	一般生活必需品及薬品、その他
定期 預 り 金	29,500.00	
短期 借 入 金	600,012.00	大豆作付資金
委託 販 売 代 金	414,006.00	マイス精算費額
仮 受 金	45,178.00	通信費、その他
未 払 利 息	30,609.33	
II 固 定 負 債	4,530,600.75	
長期 借 入 金	4,530,600.75	
引 当 金	387,093.56	
償 却 引 当 金	385,742.14	車輛及踏機 械 償 却 引 当
退 職 引 当 金	1,350.00	
貸 引 当 金	92.00	
IV 雑 勘 定	68,046.805	
道路 補 修 積 立 金	67,328.105	
アラングレ 股 置 資 金	718.70	アラングレ 股 置 補 助 金 の 残
V 資 本	5,904,000.00	
払 込 出 資 金	2,263,035.29	
未 払 込 出 資 金	3,640,964.71	
当 期 差 利 益	657,518.48	
合 計	14,376,303.455	

損益計算書

(1962年3月1日~1963年2月末日)

項 目	金 額	備 考
I 売上総利益	2,403,268.82	
購買品売上益	750,505.24	
受販手数料	75,643.34	
運輸事業収入	69,473.65	
使用料	20,159.35	ジープ、トラック一般種料金
II 一般管理販売費	1,604,207.96	
III 事業利益	799,060.82	
IV 事業外収入	390,425.76	
受取利息	283,385.37	
雑収入	105,361.60	
現金過不足勘定	1,678.79	
V 事業外支出	591,968.84	
支払利息	346,570.14	
指導助成金	44,500.-	
コミサリオ給与	54,644.-	
巧労働金	31,000.-	
負担金	30,000.-	
区長手当	13,950.-	
競争研究費	10,304.-	
当期純利益	657,516.48	

1960、61、62年の組合収支一覧表

事業年度 期 間 摘 要	3(1960)		4(1961)		5(1962)	
	自1960 至1961	3.1 2末日	自1961 至1962	3.1 2末日	自1962 至1963	3.1 2末日
売 上 高		0		0		0
農産物受託販売高	9,178,803.57		9,709,104.70		14,457,265.11	
購買品売上高	6,129,887.20		5,773,665.45		5,822,719.73	
運輸事業収入	520,717.63		490,147.23		896,330.19	
計	15,829,409.40		15,972,997.44		21,176,314.21	
売 上 原 価						
農産物払戻高	8,885,202.06		9,434,637.60		13,700,831.26	
購買品期首棚卸高	986.9	4.63	995,116.99		649,002.27	
購買品仕入高	5,378,446.36		5,083,703.53		5,431,109.50	
計	15,250,642.71		15,413,458.12		19,780,943.47	
購買品期末棚卸高	895,116.98		649,002.27		1,007,893.33	
売 上 総 利 益	1,473,883.33		1,208,541.59		2,003,268.78	
管 理 販 売 費	1,291,111.34		1,329,073.42		1,604,907.46	
事 業 損 益	益 182,771.94		損 100,531.83		損 499,069.63	
事業外収入						
受 取 利 息	250,182.70		264,026.21		283,385.37	
雑 収 入	21,095.19		9,163.86		105,261.11	
現金過不足勘定					1628.11	
計	271,278.59		273,140.07		390,425.96	
事業外支出						
支 払 利 息	310,450.58		315,949.99		346,570.14	
指 導 助 成 金	14,500.11		25,337.11		44,500.11	
コ ミ サ リ オ 給 与	19,100.11		42,077.67		54,644.11	
巧 労 金	60,000.11		60,000.11		21,000.11	

	3(1960)		4(1961)		5(1962)	
	自1960 至1961	3.1 2末日	自1961 至1962	3.1 2末日	自1962 至1963	3.1 2末日
負 担 金	50,000-		30,000-		30,000-	
区 長 手 当			15,880-		13,950-	
農 事 型 究 費					10,304-	
計	454,050.58		435,244.64		531,968.54	
純 損 益	0		損28,256.29		益65,751.84	

移住会社融資の借入償還状況

使 途 別	貸 付 額	償 還 額	貸 付 残 額	期 限
永年作物家畜導入資金	2,570,000-	-	2,570,000-	65
トラック購入資金	455,037.8	364,030.3	91,007.5	63
第2次トラック購入資金	1,000,000-	225,119.80	774,880.20	67
マテ茶乾燥工場設立資金	920,000-	50,400-	869,600-	68
短期開発資金	600,000-	-	600,000-	63
計	5,545,037.8	639,602.83	4,909,400.95	-

融資の借入償還状況は上記の通りであり組合員一戸当り負担額は約35,000円となる。

(第2次トラック購入、マテ茶乾燥工場、短期開発資金はドル建てに付き 126換算額計上)

3. 組合員(140名)の営農状況

農産物販売収入

		60年	61年	62年
マ イ ス	販売量	1,908,025.4g	861,229.-	1,079,446.-
	高	7,165,953.8g	3,399,734.-	4,082,235.-
大 豆	販売量	206,083.4g	314,459.-	951,474.-
	高	1,229,263.8g	2,819,237.-	8,442,143.-
棉	販売量	17,944.4g	58,240.-	
	高	242,912.8g	934,944.-	
小 麦	販売量	4,215.4g	581.-	10,852.-
	高	3,398.8g	4,752.-	93,477.-
雑 豆	販売量	31,779.4g	74,139.-	
	高	429,462.8g	979,527.-	
落 下 生	販売量		6,270.-	
	高		114,82.-	
其 の 他	販売量	4,074.4g		2,826.-
	高	77,932.8g	1,559,508.-	1,105,171.-
小 計	販売高	9,178,803.-	9,709,184.-	13,353,026.-
ツ ン グ	販売量			1,109.-
	高			13,226.-
ゼ ル パ	販売量			11,584.-
	高			1,091,013.-
小 計	販売高			1,104,239.-
合 計	販売高	9,709,184.-	9,709,184.-	14,457,265.-
一戸当り平均販売高		(141)18,000.-	(145)68,000.-	(174)103,000.-

備：其の他収入内容＝60年度 豚油及米、61年度 生豚 豚油、米、ニンニク、人参、玉葱等、62年度 豚油及生豚

豚油は自給体制確立の為の豚飼育による余剰分の換金

よつて上記過去3ケ年の営農実績を見ると、61年度旱魃被害により収穫率が低下しているにも拘らず、除々に上昇線をたどっているのは耕作面積の拡張に依るものであります。又昨年度作付実績に基き本年度の販売推定を見ると下表の通り総額22,371千円の粗収入となり一戸当りの販売高は160,000円となります。尙収穫量の急増しているツング、ゼルパの収穫量は数的把握が困難であり除外している為実際には一戸当り販売高は160,000円以上となる。

組合員66名開墾面積及資金調達明細表

区分 氏名	所有 土地	耕作 面積	新規開 墾地	開墾所要資金	自己資金	借入金
秋田 美義	25	11	1	4,000-	4,000-	2,000-
岡部 勝喜	25	20	2	7,000-	3,000-	4,000-
橋本 平	50	10.7	5	20,000-	10,000-	10,000-
文野 正幸	24	15	5	17,500-	7,500-	10,000-
岡部 正	8.5	7	1	3,500-	1,500-	2,000-
秋田 正馨	70	22	6	24,000-	18,000-	6,000-
山脇 延次	25	12	5	17,500-	7,500-	10,000-
山脇 孝雄	24	10	3	15,000-	9,000-	6,000-
渡辺 儀	50	14	5	17,500-	7,500-	10,000-
淡中 齋敏	25	16.5	5	20,000-	10,500-	9,500-
田中 栄太郎	31	14	3	3,500-	2,500-	5,000-
岡道 雄	68	29	10	35,000-	25,000-	10,000-
宗崎 友信	30	18	4	16,000-	10,000-	6,000-
山之上 恵三	22.5	10.6	5	20,000-	10,000-	10,000-
竹内 耕作	25	11	2	2,000-	3,200-	4,000-
林 木一	25	10	2	7,000-	4,000-	3,000-
原本 栄	25	13	3	12,000-	6,000-	6,000-
塩井 正澄	124	23.7	6	21,000-	15,000-	6,000-
宮脇 幸雄	75	22	1	3,000-	2,000-	1,000-
亀井 久松	25	10.5	5	7,500-	2,500-	5,000-
伊藤 寛	50	23	10	30,000-	15,000-	15,000-
中島 太吉	56	23	13	39,000-	26,000-	13,000-
谷口 正治	60	32.5	4	13,000-	2,000-	5,000-
岩崎 正俊	330	30	20	60,000-	40,000-	20,000-
小矢沢 秀雄	112	34.5	5	15,000-	10,000-	5,000-
田村 勝巳	35	14.5	3.5	10,500-	4,500-	6,000-
泰泉寺 貞光	585	75	50	150,000-	100,000-	50,000-
氏原 敏光	145	22	5	17,500-	12,500-	5,000-
筒井 正	24	18	5	17,500-	10,500-	7,000-
北川 忠七	25	11	5	17,500-	7,500-	10,000-
市原 正一	25	6.5	3	10,500-	5,500-	5,000-

氏名	区分	所有地 ha	耕作 ha	新規開 地	開発所要資金	自己資金	借入金
川村 融		251 ^{ha}	18 ^{ha}	5 ^{ha}	17,500 ^G	7,500 ^G	10,000 ^G
笹岡 幸和		59	45	5	17,500-	7,500-	10,000-
松尾 乙喜		31.5	12.8	4	14,000-	6,000-	8,000-
荒瀬 幸三郎		25	10	2	7,000-	3,000-	4,000-
川上 秋雄		25		5	17,600-	12,600-	5,000-
小計		2,369.5 ^{ha}	707.8	221 ^{ha}	735,100 ^G	430,600 ^G	304,500 ^G
筒井 清信		25	125	5	17,500-	7,500-	10,000-
玉井 幸久		25	12	5	17,500-	9,500-	8,000-
川村 孝行		50	10.5	5	17,500-	11,500-	6,000-
久岡 源二		49	30	17	44,000-	31,000-	12,000-
中越 直義		36	17	5	17,500-	9,500-	8,000-
桧垣 周平		25	16	3	17,500-	4,500-	6,000-
中越 栄利		50	20	4	3,000-	-	8,000-
前田 定雄		125	60	50	195,000-	145,000-	50,000-
川上 秋则		25	12.5	5	17,500-	7,500-	10,000-
越智 進		50	25	10	20,000-	10,000-	10,000-
国乘 武利		125	25.5	5	17,500-	10,500-	5,000-
越智 昇平		115	90	12	12,000-	30,000-	12,000-
大野 政喜		28	14	2	5,000-	1,000-	4,000-
片岡 政喜		68	35.5	10	27,000-	17,000-	10,000-
西本 栄		25	13.5	6	23,000-	11,000-	12,000-
西本 高義		25	15	5	17,500-	7,500-	10,000-
川上 真正		50	70	8	20,000-	12,000-	8,000-
中越 勝次		127	45	3	9,000-	4,000-	5,000-
西森 幸為		128	32.5	30	70,000-	50,000-	20,000-
新土居 保広		106	51	20	70,000-	50,000-	20,000-
池本 勇		50	10.5	5	17,000-	7,000-	10,000-
新土居 正吉		50	25	4	11,000-	6,000-	5,000-
小倉 十八		99	38.3	7	21,000-	14,000-	7,000-
木棉 一二三		37.5	17	5	15,000-	6,000-	9,000-
酒城 藤作		50	18	5	15,000-	5,000-	10,000-
中田 晴正		56	23	10	33,000-	23,000-	10,000-

氏名	区分 所有地	耕作 面積	新規開 墾地	開發所要資金	自己資金	借入金
高橋 幸一	49 ^{ha}	27 ^{ha}	15 ^{ha}	50,000 ^円	35,000 ^円	15,000 ^円
村久保 策	59	17.5	3	8,000 ^円	—	8,000 ^円
伊 藤	14	28.5	2	7,000 ^円	1,000 ^円	6,000 ^円
松尾 潜太郎	279	18	3	7,000 ^円	3,000 ^円	6,000 ^円
小 計						
合計 66名						
合 計	4,198.9 ^{ha}	1,498.1 ^{ha}	47.6 ^{ha}	1,587,100 ^円	961,600 ^円	625,500 ^円

